

教室OBをサポート役として組織化することで高品質サービスを提供。
人気教室となって施設利用者が増加！それに伴い来街者が増加！

田 辺 市 ア オ イ 通 り 協 同 組 合

機関名	田辺市アオイ通り協同組合			
所在地	和歌山県田辺市下屋敷町1番地			
電話番号	0739-25-2552			
地域概要	(1)管内人口	71千人	(2)管内商店街数	10商店街
事業の対象となる	(1)商店街数	1	(2)会員数	24商店
商店街の概要	(3)空店舗率	0%	(4)大型店空き店舗数	0
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者交流施設）
 ・パソコン教室、カルチャー教室、他
 総事業費 3,089千円

【事業実施内容】

1. 背景

田辺市は、平成17年5月1日に5つの市町村（田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、本宮町）が合併して新たな田辺市としてスタートした。紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置しており、古くから紀南地方の交通の要衝として栄えてきた。世界遺産に登録された熊野古道や熊野本宮大社に代表される古い歴史や文化があり、また日本三美人の湯で知られる龍神温泉や、日本最古の湯といわれる湯の峰温泉など温泉地としても有名である。

田辺市の世代別の人口構成をみると、65歳以上の高齢者比率が22.7%となっており、全国平均の17.3%、和歌山県平均の21.2%と比較して高く、全国的にも高齢化が進んでいる地域である。中心市街地でも高齢化は進んでおり、高齢者対応の機能をもった施設の設立が望まれていた。そこで、平成15年8月、田辺市の中心商店街に位置する田辺市アオイ通り商店街（アオイ通り協同組合）が補助金の受け皿となって高齢者対応のコミュニティ施設を開設した。運営は、特定非営利活動法人市民活動ネットワーク田辺に委託して事業を行なっている。平成16年度も、高齢者を対象としたパソコン教室や各NPO団



田辺市位置図（田辺市HPより）

体等の地域活動の促進と地域住民との交流を継続して行った。

2. 事業内容

(1) 施設概要

- ①所在地：田辺市下屋敷町1-78
アオイプラザビル2階
(アオイ通り商店街内)
- ②開設日：平成15年8月16日
- ③休館日：日曜日(午前9:00～午後6:30)
- ④面積：130坪
- ⑤利用料：午後からの利用者については電気代等として1時間当たり100円(滞在時間に関らず上限は200円程度)任意で頂いている。作品展示は無料。

(2) NPO法人市民活動ネットワーク田辺の概要

- ①設立年：平成14年3月
- ②目的等：一般市民や高齢者と共に郷土の歴史文化の承継・居場所づくり等の社会活動に関する事務を行なうこと。市民団体を横に繋げる連絡組織として結成され、約50団体が加盟している。



市民活動ネットワーク田辺の位置

(3) 実施事業

①パソコン教室

平成15年度は、高齢者は一般のパソコン教室では内容が難しいため、高齢者のための初心者パソコン教室を開催した。平成16年度は、初級・中級・上級に分けている。講座の部と自由にパソコン体験の部があり、講座の部では、関数・名簿作成など基礎的な操作方法について学習し、自由にパソコン体験の部では、基礎練習や講座の部で習った知識を定着させるための復習の時間としてパソコンを使用してスキルアップを図った。

②カルチャー関連事業

各NPO団体等が、カルチャー教室を開講したり、地域住民の作品の展示などを行なった。



パソコン教室の様子



カルチャー教室の様子

＜各カルチャー教室の内容＞

カルチャー名	内 容
病態栄養指導者研修者会	栄養指導（各患者の食事の指導）を行った。
おしゃれ講座	「髪型、体系、人それぞれアクセサリーと洋服の選び方」、「メイクアップカラーアドバイス」等おしゃれに関する講座を開催した。
嵯峨御流	生花教室、花の勉強などを行った。
ひがし和紙絵サークル	ちぎり絵教室を開催した。
アライアンス	健康についての講座を開催した。
健康講座	「今と未来について」というテーマで講座を開催した。
ファッション工房	「世界に1着しかない自分の服を着る楽しさ」というテーマでファッションについての教室を開催した。

③郷土歴史文化継承活動事業

伝統行事、歴史、史跡、文化芸能などの資料の展示や、高齢者を講師に迎えての承継活動を行った。

④ガイド活動事業

田辺市内の観光案内を行なうボランティア団体（観光ガイドの会）がガイド活動を行い、また観光案内のための知識を習得する研修を行った。

⑤居場所づくり事業

高齢者が集い健康器具を利用し知識経験の披露を行なうなど交流の場を作った。

(4) 広告宣伝

①看板の設置

施設の近隣の歩道に、施設PRについて書かれたの置看板を2箇所設置した。

②ポスター：施設PR用のポスターを作成し、商店街内の各個店の店頭に掲示した。

③チ ラ シ：施設PR用のチラシを作成し、各公的機関に置かせてもらった。

④新聞広告：地元紙に新聞広告を掲載し、施設をPRした。

(5) 利用者数（来訪者数、参加人数）

	平成 15 年度 (H15. 8～H16. 3)	平成 16 年度 (H16. 4～H17. 3)
パソコン教室	2,533 名	4,468 名
カルチャー教室	765 名	1,102 名
歴史文化承継活動	168 名	1,201 名
ガイド活動	10 名	12 名
居場所づくり事業	537 名	1,142 名
合 計	4,013 名	7,925 名

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

本事業を実施・継続することに伴って広報活動（ポスター、チラシ、看板、新聞広告など）を幅広く実施したことから商店街の認知度が上がった。

2. 来街者の行動

施設利用者が商店街を通ることから、教室の受講生の人数が増加すると、それに比例して来街者数が増加する。平成15年度に比べて受講生数がかなり増加したので、高齢者中心に来街者数が増加した。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 収益事業の確立

現在、当コミュニティ施設の収益はパソコン教室の参考書・インク代等10,000円である。各教室の講師はボランティアで行ってもらっているが、ボランティアだと長続きしないことがあるので、講師料をはらっても講師を継続してもらえるようにしていきたい。そのためには、今の収益では不十分なので、パソコン教室の料金の値上げを考えている。しかし、値上げをすると受講者が減る可能性があるため、値上げをするかしないか、また値上げをするならいくらするのが検討課題になっている。どのような方法にするにしろ、しっかりとした収益事業の確立が課題である。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

- ・パソコン教室は、初級・中級・上級と分かれているが、上級の卒業生にはボランティアとして教室のサポートをしてもらっている。講師の他にサポートが5～6人ついており個別指導の手助けになっている。今まで当教室の講義を受けてきて講義内容を理解している卒業生からサポート役を選出することで、講義の品質の均一化・安定化につながる。
- ・施設には、基本的に徒歩での来館を促している。当施設の設置目的の一つは商店街の通行量の増加であるので、施設まで自動車等で来館されるとその目的が果たせなくなる。商店街の賑わいを創出するためには来館者には徒歩で来るように促すべきである。
- ・パソコン教室の講師には定年を迎えた元学校教諭にボランティアとして来て貰っている。元学校教諭ということもあって話し上手で教え方が丁寧である。近隣地域でそのような人材を探し、講師になってもらうことで、非常に質の高い講義をしてもらえる。

【 関 連 U R L 】

田辺商工会議所 <http://www.aikis.or.jp/~t-cci/>